

2020 年 活動報告

●決算理事会 (3/11)

●東京都への事業報告(3月)

●世界結核デー ストップ結核パートナーシップボランティア大使 JOY さんを招いて、スペシャル対談 (3/24)

共催： 日本国際交流センター／グローバルファンド日本委員会、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本

目的：結核の正しい知識の認知、グローバルファンド（GF）への理解、GF 聖火リレーの認知

出演者：

- ・ JOY さん（タレント、ストップ結核パートナーシップボランティア大使）
- ・ 加藤誠也（結核予防会 結核研究所所長／ストップ結核パートナーシップ日本 理事）
- ・ 伊藤聡子（日本国際交流センター 執行理事／グローバルファンド日本委員会 事務局長）

動画配信：<https://www.youtube.com/watch?v=pLNd5NTiJHE&feature=youtu.be>

→ 対面でのイベント開催がコロナの影響で急遽動画配信に変更して実施

STBP の世界結核デーの Twitter キャンペーンに参加

<効果> (3/24～3/31)

媒体：広告、PR Times, JCIE, STBJ, 沖縄 GF の Twitter, Facebook

インプレッション数（接触）： 70 万人（認知）

エンゲージメント率（いいね、リツイート）：14.4%（エンゲージメント）

動画視聴：7 万 （行動喚起）

※STBJ の Twitter では、フォロワー数 11 増加

3/24 対談告知のツイートで、

インプレッション 2197、エンゲージメント数 67、エンゲージメント率 3.0%

●世界と日本の結核終息におけた 結核予防週間 結核レッドライトアップ（東京タワー）中止

東京タワーと東京都庁、全国 47 都道府県庁舎を結核のシンボルカラーである赤にライトアップする。日本の結核低まん延化を見据え、従事者、一般に対しても結核に対する理解を深め、意識の向上を図る。

今年は、日本が戦前より会員である国際結核肺疾患予防連合の設立 100 周年にあたる。点灯式においては、低まん延化におけて新たなステージを迎える国内結核対策の重要性を再確認すると同時に、日本が戦後に結核を短期間で制圧した経験や世界の結核終息に向けた貢献を点灯式で確認し、関係者のコミットメントを深める。ストップ結核ジャパンアクションプラン改定についても言及する。

→ コロナのため中止決定 3月

●東京オリパラリンピック 聖火リレー 延期

ストップ結核パートナーシップボランティア大使 JOY さんが、聖火リレーグローバルファンドチームの

ランナーの一員として決定（沖縄）。

→ コロナのため延期決定 3月

●コロナの結核対策への影響について情報提供（3月～）

日本語訳作成し、アクションプラン関係5者、議連、GII/IDI、HP、Twitter等で共有。

- ・高結核負担国の結核担当に対する迅速評価（STBP）
- ・モデル分析 COVID-19パンデミックが世界の結核対策に及ぼす壊滅的な影響（STBP）
- ・COVID-19に関する質問集（The Union）
- ・NY Times 2020年8月3日
- ・Nature 2020年8月13日、等

※2019年結核登録者情報調査年報集計結果の解説+結核予防週間 記者会見（8/24）でも森先生により「世界的に見た新型コロナウイルス感染症の結核への影響」を発表いただいた。

●G20 保健大臣会合宣言への提言（4/15）

世界結核議連（Global TB Caucus）より、「G20 保健大臣会合への提言書」を政府関係者へ提出することを依頼され、STBJも提言を支持し、結核患者を含む、脆弱な人々が新型コロナウイルスの影響を最も受けやすいことを認識し、新興感染症、再興感染症、非感染症において、誰も取り残すことなく、人々が医療に公平に速やかにアクセスできるよう、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟武見会長を通じて要望（厚労省、外務省へも共有）。

提言書は、主に以下の団体の結核コーディネーショングループによって作成された。

- WHO（世界保健機関）
- The Global Fund（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）
- Stop TB Partnership（ストップ結核パートナーシップ）
- The Union（国際結核肺疾患予防連合）
- TB Alliance（TB アライアンス）
- ACTION Partnership（アクション パートナーシップ）
- RESULTS UK（リザルツ UK）
- RESULTS Australia（リザルツ オーストラリア）
- RESULTS Canada（リザルツ カナダ）
- India HIV/AIDS Alliance（インド HIV/AIDS アライアンス）
- Global Health Advocates（グローバルヘルス アドボケート）
- MSF（国境なき医師団）
- Global TB Caucus（世界結核議連）

→ G20 保健大臣会合宣言（成果文書）はまとまらなかった。

●ストップ結核ジャパンアクションプラン改定（4月～12月）

昨年11月のストップ結核ジャパンフォローアップ会合にて、STBJより現行アクションプランは2020年12月末をタイムラインとしており、国連総会結核ハイレベル会合（UNHLMTB）等の成果である政治宣言を

踏まえて必要な対策を推進すること、「結核に関する特定感染症予防指針」の目標年と見直し時期が近づいていることを視野に入れ、アクションプラン改定に向けた議論が必要との提案があり、アクションプランを2020年に改定する方向で検討を進めることが決まった。国際的な対応としては、2018年の国連結核ハイレベル会合の成果である政治宣言及び近年の日本政府の新たな取り組み等を踏まえたものにする。国内対応としては、来年に向けた結核に関する特定感染症予防指針の見直しプロセスを踏まえたものにする。

→ 3月からのコロナの拡大に伴い、コロナの状況を踏まえたものにするべく調整。関係5者案は11月に完成。現在は、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟事務局 浜田昌良事務所で確認中。議連の承認をもって完成とする。それまでは現行アクションプランを有効とする。

●耐性結核新薬開発基金 運営委員会（6月）

Innovation Alliance on Tuberculosis Diagnosis and Treatment(IATB)での研修（中止）

大塚製薬

研修実施予定 2020年7月16日～19日

書面運営委員会（6/11-6/19）

850万

→ 承認直後に大塚製薬より連絡が入りコロナのため中止。

●GPMB（世界健康危機モニタリング委員会）レポートへの要望（7月～9月）

GTBCから依頼、STBJも賛同し、武見会長へ情報提供（コロナの結核への影響など）とともに要望。

武見会長を通し、厚労省G20保健シェルパ（国際課）へ依頼をした。

<概要>

結核対策の必要性、資金ギャップ、UHC・保健システム強化（HSS）への汎用性を再認識して頂くこと。加えて「新型コロナウイルス感染症に関するG20首脳テレビ会議」（2020年3月）により要請された「保健・財務大臣合同会合」へのGPMBによる報告書に、結核が明記されるように要望。

→ 厚労省国際課（G20保健シェルパ）より、「G20すべての国からの統一した同意が得られなかったため、現在GPMBがG20保健・財務大臣会合へ報告書を提出する可能性はほぼない。GPMBは現在、G20とは関係なく元々予定していた第二版レポートの発行を9月に予定して活動しているが、こちらはコロナにたいする今般の各国の対応から世界がどのような教訓を得たかがテーマであり、コロナではない他疾患の記載を入れますのは非常に困難」と回答。

→ 「コロナにたいする今般の各国の対応から世界がどのような教訓を得たか」というテーマに合致するようであれば、コロナへの各国対応が、結核を含む感染症へどのような影響を与えたか、等を明記いただきたい旨、再度提案をした。

→ GPMP Annual Report https://apps.who.int/gpmb/assets/annual_report/GPMB_AR_2020_EN.pdf

●耐性結核新薬開発基金 規定の改定（7月～8月）

基金設立から11年が経過し、2009年以来3件に対して助成を行ってきたが、近年は現規定では、対応ができない案件もでてきた。基金をより効果的に活用するために規定を改定し、運営委員を一新するこ

とになった。

<改定の目的>

- 設立より 11 年が経過した為、見直しを行う。
- 資金活用の目的の範囲を広げる。
 - ・ 新抗結核薬に加え、治療用ワクチン、宿主標的治療薬、既存薬の適応拡大などを含む。
 - ・ 治験を実施する施設への資金援助だけでなく、官民団体への資金援助を可能とする。
 - ・ 新抗結核薬、および多剤耐性結核対策に資する関連新技術の、途上国における開発治験ならびに関連する活動の向上のための支援を加える。

●STBJ 書面理事会 (7/6~7/17)

- ① 日本ビーシージー製造株式会社 代表取締役社長
貝谷 伸 様の STBJ の理事就任について
 - ② 大塚製薬株式会社 抗結核プロジェクト グローバルプロジェクトリーダー
川崎昌則 様の STBJ の理事就任について
 - ③ 耐性結核新薬開発基金の規定改定について
→ ①②について承認
 - ③については、規定案に対し意見が出され再審議となった。
- 7/17 承認

●STBJ 書面理事会 (7/30~8/15)

- ① 耐性結核新薬開発基金規定改定の再提案、新運営委員の提案
- 8/15 承認

●2019 年結核登録者情報調査年報集計結果の解説+結核予防週間 記者会見 (8/24)

日時：8 月 24 日 10:00~ 11:00

場所：厚生労働省記者会 / オンライン

※対面（記者 5 名まで）とオンラインで開催

- ① 2019 年結核登録者情報調査年報集計のポイントと新型コロナウイルス感染症の日本の結核への影響
加藤誠也（結核研究所所長）
- ② 世界的に見た新型コロナウイルス感染症の結核への影響
森 亨（結核研究所名誉所長、ストップ結核パートナーシップ日本代表理事）
- ③ コメント 江浪武志（厚生労働省健康局 結核感染症課長）

→記 事

毎日新聞 2020 年 8 月 27 日 東京夕刊

<https://mainichi.jp/articles/20200827/dde/012/040/017000c>

毎日新聞 2020 年 8 月 25 日 東京朝刊

<https://mainichi.jp/articles/20200825/ddm/041/040/057000c>

毎日新聞 2020 年 8 月 24 日 19 時 24 分

<https://mainichi.jp/articles/20200824/k00/00m/040/158000c>

※STBP、GTBC へ共有した。

●2021 年結核関連予算要望（8 月）

厚労省提出（8/24）

外務省提出（8/26）

●耐性結核新薬開発基金運営委員会（9/15～10/2 ）

ケニア共和国、日本での MDRTB サミットの開催

日本リザルツ

サミット実施予定 12 月

書面運営委員会（9/15～10/2）

250 万

→ 新型コロナウイルス感染症の影響で延期（3 月～5 月予定）

●結核予防週間 「結核終息のための田無タワーライトアップ」（9/24～9/30）

田無タワーを結核のシンボルカラーである赤にライトアップをする。

FM ひがしくるめ “くるめら” での、石川信克（結核研究所名誉所長）のお話 9/11 20：00

主催：結核予防会

共催：東京都結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本

※STBJ では、Twitter、HP で予防週間、ライトアップや予防週間を広報。

●TB Expert Meeting（10/31）

TB control for foreign-born people living in Japan.

- Pre-entry screening of active TB and how to follow-up people with LTBI post-entry-

日時：10 月 31 日 9：00～12：00

場所：オンライン（Zoom）

目的：日本に住んでいる外国生まれの人々へ対する結核対策の事前協議を発展させるため、この会議では、入国前および入国後の LTBI スクリーニングに対する具体的なアプローチと、その仕組みと方針、長期戦略として日本に適用できる可能性のある他の国々で成功裡に使用されたフォローアップについて、焦点を当てる。

共 催：キアゲン、ストップ結核パートナーシップ日本

スポンサー：キアゲン

Speakers and Co-chairs

- ・ Toru Mori, MD, Research Institute of TB, Tokyo, Stop TB Partnership Japan, Co-Chair
- ・ Loyce Masae Kawamura, MD, QIAGEN USA, Co-chair
- ・ Drew Posey, MD, CDC USA
- ・ Seiya Kato, MD, Director of Research Institute of TB, Tokyo

- ・ Akihiro Ohkado, MD, Research Institute of TB, Tokyo
- ・ Jin Takasaki, MD, National Center for Global Health and Medicine
- ・ Omura, Secretary General, the Japanese Language School

● Asia Pacific Virtual TB Summit 2020 (GTBC) (12/3)

目 的：各国の結核と新型コロナウイルス感染症への取り組みを共有し、アジア太平洋地域での協力の可能性について議論する。

参 加：アジア太平洋地区 10 か国から議員 14 名、その他

The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria (Global Fund), Stop TB Partnership (STBP), Asia Pacific Council of AIDS Service Organizations (APCASO) and Activists' Coalition on TB – Asia Pacific (ACT! AP).

※日本は、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会長 武見敬三議員がビデオメッセージで参加。

動画：www.stoptb.jp/blog/2020/12/07/208

共同宣言内容（案）：

- ✓ 国連総会結核ハイレベル会合の政治宣言の目標達成
- ✓ 各政府と協力して、結核対策のための適切な資金調達を守る。
- ✓ 結核サービスを含む不可欠な保健サービスの維持を政府に呼びかける
- ✓ 各政府に対し、今後数ヶ月間の大規模な不足を緩和するために、結核治療薬のサプライチェーンを保護するよう呼びかける。
- ✓ 医薬品、ワクチン、医療機器へのグローバルなアクセスを確保し、COVID-19 や結核のような既存の感染症との闘い、将来のパンデミックを緩和するために必要な研究開発を強化することを目的に、多分野のセクターの利害関係者を構築する。
- ✓ 全ての感染症対応、COVID-19 対応において人権を保護し、人間を中心とした法制度を主導する。

● GGG+フォーラム (12/17)

GYOZA IT. 日本リザルツ主催

第一部 結核 に森代表理事が総括、小野崎先生がモデレート。